



「私とキャンプとYMCA」

永吉 宏英

Nagayoshi Hirohide

大阪体育大学名誉教授
日本野外教育学会会長
大阪府キャンプ協会会長
大阪府青少年活動財団理事長

▼YMCAキャンプとの出会い

大阪体育大学の教員になって間もない頃、当時レクリエーションの授業やキャンプ実習を担当していた関係から、日本YMCA同盟主催の社会体育指導者養成セミナー（現、生涯スポーツセミナー）に講師として参加しました。その主会場がYMCA阿南国際海洋センターであり、以後ほぼ2年に1回、海洋センターを中心に行われるセミナーに携わりながら、海のスポーツの楽しさ（ヨット、カヌー、ボードセーリング等）を体感し、また講師団を率いた酒井哲雄先生やYMCAスタッフやカウンセラーのみなさんの献身的な働きぶりに、大きな感銘を受けたことを覚えています。



社会体育指導者養成セミナー in 阿南



社会体育指導者養成セミナー in 野尻

1984年アメリカニュージャージー州立自然保護学校（SOC）での2年間の留学から帰国した私は、環境教育をベースにおいたプログラム中心のキャンプの考え方にどっぷりと漬かっていました。すべてのアクティビティは、環境学習につながる目的を果たすために活動場所や時間、活動の展開の仕方、まとめに至るまでレッスンシートに細かくまとめられていました。アメリカでは「カリキュラム中心の野外教育」が全盛で、子どもたちの主体性やグループワークを大切にしながらプログラムの展開などは、SOCではあまり考慮されていませんでした。この時期は、日本でも環境教育が注目を集めており、環境庁の様々な委員会にお招きいただき、関連書籍の執筆に関わっていました。

この時期に、キャンプワークショップに講師としてお招きをいただき、ASE・エコディスカバリーなどのアクティビティ指導やアメリカキャンプ事情の講義を担当しました。この中で、酒井哲雄先生やアサヒキャンプの小西孝彦先生から、組織キャンプの目的は「子どもたちの生きる力の育成」であり、

- ①キャンプではグループワークの考え方が大切であること、
- ②アクティビティはグループの成長過程に応じて選択されなければならないこと、
- ③活動においては子どもたちの相互作用を活発にし、主体性や協力心を引き出すことを大切にすること、

などをじっくりと教えていただき、さらに多くのキャンプ仲間とのつながりが生まれ、大切な学びの時となりました。

また、私にとって大きな喜びとなったのは、1995年9月日本YMCAキャンプ75周年を記念する事業「未来の探究 生命の讃歌」に講師として参加させていただいたことです。

これまでの日本とYMCAのキャンプの歴史を振り返り、未来を展望するキャンプ・フォーラムに参加し、ノートルダム清心学園理事長の渡辺和子先生ほか3人の先生方とのパネルディスカッションで司会をさせていただきました。宗教観・人間観・自然観の視点からキャンプを考えるとという新鮮なキャンプの切り口に、YMCAキャンプの持つ奥深さを大いに勉強させていただきました。



日本YMCA キャンプ75周年「未来の探究 生命の讃歌」

▼Y M C Aでのキャンプ活動

Y M C Aでのキャンプ活動と言えば、何ととっても 1991 年からY M C A阿南国際海洋センターにてスタートした大阪体育大学海洋スポーツキャンプ実習です。

大阪体育大学が 1965 年に開学して以来実施してきた山のキャンプからの実習の大方向転換でした。大阪体育大学は、1989 年にこれまでの伝統的な学校体育教員の養成から、生涯スポーツ指導者養成を中心としたカリキュラムの改革を行いました。野外実習も、従来の生活プログラム中心の山のキャンプから、体育大学の学生にふさわしいより挑戦的で、しかも生涯にわたって親しむことのできるアウトドアスポーツとして、海洋スポーツキャンプ実習を実施することになりました。



大阪体育大学 第 1 回海洋スポーツキャンプ実習

実習は、実技や生活の指導は教員中心で行い、学生スタッフがアシスタントとして準備や片付け、実技補助の活動をする形で行いました。Y M C A阿南国際海洋センタースタッフのみなさんは、必要な助言や高速ボートでの安全管理等の専門的スキルを必要とするようなサポート活動に徹していただき、私たちの自主的・主体的取組みを支援していただきました。

海洋スポーツキャンプ実習は、学生にとって、自然の怖さ、楽しさ、素晴らしさを肌で感じることができる素晴らしい機会、ボードやカヤックなどでは自分一人の力で、ヨットやカヌー、カッターなどでは二人で、三人で、グループで協力しながら海の自然に挑戦するという素晴らしい冒険の機会、そして野々島での魚釣りや素潜りでの貝をとったりする体験は海の楽しさをみんなで味わう素晴らしい体験となっています。

このような素晴らしい体験を積み重ねながら、2020年2月「大阪体育大学海洋スポーツキャンプ実習 30周年記念シンポジウム」を開催することができました。これも酒井哲雄先生から始まる長年にわたるY M C Aと阿南国際海洋センターのみなさんのサポートがあったからです。改めて心から感謝いたします。

▼私にとってのキャンプ

私にとってキャンプは、新しい人生を切り開いてくれた掛け替えのない宝物になりました。学生時代、登山は楽しんでいましたが、教育キャンプの世界にはほとんど関わりはありませんでした。学生スタッフと一緒に取り組む「キャンプ実習」、野外活動部の学生と一緒に行う「子どもキャンプ」や「オリエンテーリング大会」、海や山での合宿の楽しさに夢中になりました。また、酒井哲雄先生との関わりで経験したY M C Aキャンプの奥深さに引き込まれて、専門的に学びたいという意欲が高まって1983年～84年にニュージャージー州立自然保護学校に留学しました。そして、恩師の江橋慎四郎先生が初代会長をお努めになったこともあり、日本野外教育学会の設立に関わり、理事となりました。

酒井哲雄先生や小西孝彦先生などの大先輩や、石田易司さんや石原福造さんなどのたくさんの友人、今でも先生、先生と慕ってくれるたくさんの野外活動部の教え子たち、これらのみなさんとのつながりは今でも私の人生の宝物です。私は現在、日本野外教育学会の会長、大阪府キャンプ協会の会長、大阪府青少年活動財団の理事長などの役職を務めていますが、そのほとんどはキャンプに関係する仕事です。まさに、キャンプは私の人生そのものです。

▼これからのY M C Aキャンプ 100年への期待

これからのY M C Aキャンプ 100年への期待として、次の3つを挙げます。

①これからもY M C Aが培ってきた教育キャンプの伝統を大切に、日本の組織キャンプをリードするY M C Aであって欲しい

言うまでもなくY M C Aのキャンプの歴史は、日本の組織キャンプの歴史そのものです。日本の組織キャンプは、1920年に大阪Y M C Aが六甲山麓南郷山で行った少年キャンプを始まりとすると言われていています。Y M C Aの青少年教育としてのキャンプの理念と実践、伝統は今も生き生きと輝いています。これからも、青少年の健全育成をめざす教育キャンプの発展に貢献していただきたいと思います。

②キャンプの新しい時代を切り拓くY M C Aであって欲しい

Y M C Aのキャンプは、常にキャンプの新しい時代を切り拓いてきました。「国際交流・異文化交流のキャンプ」などは、Y M C Aがその歴史を通して実践してきたキャンプです。キャンプに期待される役割が多様化し、増大する中、これからのY M C Aのキャンプには、青少年キャンプにとどまらない、時代を切り拓いていく役割を期待しています。

③キャンプを通じた地球環境保全に関わる教育や実践の領域で、日本のリーダーシップをとって欲しい

森林の消滅や温暖化、海洋プラスチックゴミ等による深刻な海洋汚染など、地球規模の自然破壊が大きな問題となっています。これらの現実を踏まえて、自然を活動の舞台とするキャンプにおいても環境の保全等に関わる学習や実践が大きなテーマとなってくると考えています。日本のYMCAが世界のYMCAと連携し、世界的規模でこの取組みを進めていただきたいと願っています。

Profile



1946 年生まれ。
1975 年大阪体育大学に奉職、野外活動部を担当。1991 年より大阪体育大学「海洋スポーツキャンプ実習」をYMCA 阿南国際海洋センターで開始、以後 30 年間継続して実施中。1990 年代からシニアキャンプに取組み、2010 年より大阪YMCA「高齢者の健康づくり」プロジェクトに参画。組織キャンプに求められる状況が変わる中で、シニア層や世代間交流キャンプの分野への取組みをこれからも進めていきたいと考えている。

【取材：大阪YMCA 菅田 斉】